

# 国労

# 蘇我運輸区分会ニュース

# 第76回定期地方大会①

## 9月23日(金・祝) 10時半～県教育会館

### 車掌さんがいっぱい？

コロナ禍が始まり、3回目の地本大会、感染拡大防止対策を徹底し、大幅縮小による開催となりましたが、予定通り無事終了することが出来ました。改めて地本役員のご尽力に感謝します。さて、帰宅してから気づいたんですが、今回出席した代議員の内の11名と役員及び関係者3名の計14名が現役または元車掌という事で驚きました。来賓の東日本本部副委員長も含めると・・・車掌チームで集合写真でも撮ってください良かったですね！

### 議長選出

地本越川副委員長の開会あいさつで始まり、



藤原さん

議長には津田沼分会の藤原千尋さん(63歳・東船橋駅)が選出され、議事が滞りなく進行していきました。

「闘いが困難な中、明日からの進むべき道を確かなものにするために本大会に参加している。限られた時間だが、皆さんのご協力によってスムーズな進行が出来るようお願いいたします」と、あいさつがありがとうございました。藤原さん、ありがとうございました。

### 地本加藤委員長

#### あいさつ

今年は鉄道開業150年、分割民営化から35年、国労の第1回大会から75年という節目の年でもある。多くのことを学び、それを糧に闘ってきた歴史と伝統を自分たちの代で終わらせてはならないと、改めて思った。(社会的に)労働組合が大きな存在ではなくなっているが、会社施策を検討し、対峙出来る存在と



加藤さん

して、労働組合が必要だと言ふ声も少くない。組織強化拡大については、現状を鑑み、早急に組織のあり方を全体で議論していかねばならない。

「地域住民の足を守る運動」については、利用者の視点に立ち、国労だからこそ出来る運動を突き詰めていきたい。生活上に向けた闘いと労働条件改善に向けた取り組みとして、改めて「賃金は労働力の再確認し、生活出来る賃金と賃金制度の改善を勝ち取らなければならぬ。労組未加入者の声なき声を掴み取ることで、課題も明らかになってくる。矢継ぎ早の会社施策に対して、仲間が集まり議論する体制を強め

ていきたい。来賓、東日本本部 渡辺副委員長 皆で集まり、皆で議論することの大切さを、コロナ禍で痛感している。JR発足35年、(当時の言葉巧みな)自民党の宣伝は、あつという間に壊れた。この7月には「ローカル線のあり方」に関しても会社から見解が発表されたが、皆さんでも大いに議論していただきたい。会社施策が順風満帆だと思っている人は一人もいない。若い人たちはやらされてる感じが強い。組合が防波堤となりの取り組んでいこう。

(追記) 渡辺さんは、武蔵野線を乗務する車掌とのことで、閉会後にあいさつにきました。「ずっと武蔵野線乗務ですか？」というこちらの愚問に「いつも会ってますよ!」・・・しつ、失礼しました!!(心の中で最大級の土下座!)

## 職場に残そう、労働運動!

☆ 元当分会組合員で、現在いすみ市議会議員の元吉栄一さんから、祝電が届いてました。ありがとうございます。